臨床報告

尋常性痤瘡における漢方薬の使用経験

小林 衣子

A Clinical Study of the Efficacy of Several Kampo Formulas
in the Treatment of Acne Vulgaris

Kinuko KOBAYASHI

M. D., Department of Dermatology, Sapporo Hospital of Hokkaido Railway Company, North-3, East-1,
Chuo-ku, Sapporo 060, Japan

Abstract Patients with acne vulgaris which could not be sufficiently controlled with antibiotics (tetracycline), or who had been receiving treatment for a prolonged period were selected for treatment with Kampo medicine. Patients in whom joint use of Kampo resulted in a decrease in blemishes, patients who were able to reduce the amount of antibiotics required or stop antibiotics altogether and patients who improved with Kampo alone were grouped according to the Kampo formula being taken. The formulas Seijobofu-to, Jumihaidoku-to and Keishibuuryo-gan proved to be effective. The patients in these groups were found to have certain characteristics in common. In particular, almost all of the cases with adult acne (25 years of age or older) had the symptoms of cold hands and feet, stiff shoulders, menorrhagia, worsening of the condition before the menstrual period and other symptoms associated with Stagnated Blood. Formulas known as 'agents for expelling Stagnated Blood' (Kuoketsuzai), particularly Keishibukuryo-gan, were found to be effective.

Key words: acne vulgaris, Seijobofu-to, Jumihaidoku-to, Keishibukuryo-gan, Oketsu

Nihon Toyo Igaku Zasshi (Japanese Journal of Oriental Medicine), 47, 425-432, 1996

(accepted 20 Jun, 1996)

はじめに

尋常性痤瘡（以下痤瘡と略す）の治療は、テトラサイクリン系抗生剤の長期投与が一般的であるが、とかく治療が長期にわたるため耐性の問題や、内服による種々の副作用は無視できない。一方、痤瘡は心身のストレス、便秘、過食、性ホルモンのアンバランス、女性では特に月経不順や更年期の卵巣機能不全などで悪化することが良く知

られており、たとえテトラサイクリン系抗生剤を投与してもこのような症状が改善しないかぎり皮膚疹のコントロールは困難である。

当科では身体内部の状態と深く関わっている痤瘡には、漢方薬による治療が適切と考え抗生剤に反応が悪い症例、治療が長びいている症例、副作用のため抗生剤を服用出来ない症例を主体に漢方による治療を試みた。漢方薬を併用することにより、皮膚疹が軽快し、抗生剤の減量、中止に成功し

医、札幌鉄道病院皮膚科、北海道、〒060 札幌市中央区北3条東1丁目

[1996年6月20日受理]

表 1 清上防風湯 (TJ-58) 有効例

症例	年齢・性	開始年月	効果判定までの期間	使用理由	併用薬	直前の治療	備 考
1	18女	92'7	2 M	便秘 生理痛	外用のみ	なし	
2	24女	92'9	4 M	便秘	VB ₂ , VB ₆	MINO 50mg	漢方内服開始と同時に MINO 中止
3	19女	93'9	9 M	便秘	VB ₂ , VB ₆ MINO 50mg	MINO 100mg	94'5から MINO 中止
4	20女	94'3	3 M	便秘	VB ₂ , VB ₆	RXM 300mg CPDX-PR 200mg	抗生剤 6 週内服著変なし, CPDX-PR で嘔吐, 下剤
5	21男	94'6	4 M	体力 (+)	VB ₂ , VB ₆ CXM-AX 750mg	種々の抗生剤	漢方内服 4 カ月後 抗生剤は悪化時のみ内服

図 1 a 治療前

図 1 b 治療 3 カ月後

た症例, また抗生剤を使用せず漢方薬のみの内服で良くなった症例を, 使用した漢方薬ごとにまとめ検討した。なお, 外用剤は院内製剤の 1%クロラムフェニコール・ゾンネベースを適時使用した。

使用漢方薬とその投与目標

痤瘡の治療に有効であった漢方薬は清上防風湯, 十味敗毒湯, 駆瘀血剤である桃核承氣湯, 桂枝茯苓丸, 加味逍遙散, 当帰芍薬散である。臨床症状 (皮疹の大きさ, 紅みの程度, 膿疱の有無,

色素沈着など) と便秘, 多汗, 倦怠感, 手, 足の冷え, 肩こり, 生理不順, 生理痛, 生理前増悪の有無などの簡単な東洋医学的な問診により以下の使用目標にしたがい投与した。投与後 1~2 カ月程度の観察期間で皮疹が軽快しないときは, 漢方薬を変更した。

1. 清上防風湯 (TJ-58) の使用目標: 体力のある血色のよい青年男女の痤瘡で痤瘡以外の苦情をあまり訴えない。便秘傾向で尿量も少ない。患部は赤味が強く, 隆起が大きく, 力強く, しばしば膿疱を伴っている。

表2 十味敗毒湯 (TJ-6) 有効例

症例	年齢・性	開始年月	効果判定までの期間	使用理由	併用薬	直前の治療	備 考
1	25男	93' 3	5 M	抗生剤, TJ-58 で下痢	CFDN 300mg	種々の抗生剤	内服1年後には抗生剤は頓用, A. D. も軽快
2	31女	93' 3	5 M	便秘, 冷え, 肝斑	VB ₂ , VC	MINO 50mg TJ-25	漢方内服後 MINO は頓用, 93' 10から中止
3	21女	93' 8	4 M	冷え, 生理痛	VB ₂ , B ₆ MINO 50mg	MINO 50mg TJ-58	便秘はなく TJ-58 は無効, 4週後から MINO は頓用
4	27女	93' 12	11M	便秘, 冷え, 生理痛	VB ₂ , VB ₆ VC	MINO 50mg TJ-24	MINO でめまい, TJ-6 内服と同時に中止
5	21男	94' 4	3 M	便秘(-)	MINO 50mg	RXM 300→150mg	TJ-6 内服2ヵ月後, MINO 中止
6	36男	94' 4	5 M	便秘(-)	RXM 150mg	RXM 300mg CPDX-PR 200mg	
7	20男	94' 6	4 M	便秘(-) 多汗	MINO 100→50mg VB ₂ , VB ₆	MINO 100mg	TJ-6 内服4週間後, MINO 50mg に減量

図2 a 治療前

図2 b 治療4ヵ月後

2. 十味敗毒湯 (TJ-6) の使用目標: 清上防風湯の証よりもう少し体格は弱く (中等度以上), 皮疹の症状も軽い。便秘はあってもなくても良い。体のあちこちに度々毛嚢炎ができ化膿する傾向の者の瘡瘡に有効。

3. 桂枝茯苓丸 (TJ-25) の使用目標: 体格は中等度, 便秘はあってもなくてもよい。月経障害やへその周囲に抵抗と圧痛があり (瘀血の腹症), のぼせやすく足が冷える。気分がいらつき, ときに肩こり, 腰の痛みを訴える者の瘡瘡, 患部はあ

表3 桂枝茯苓丸 (TJ-25) 有効例

症例	年齢・性	開始年月	効果判定までの期間	使用理由	併用薬	直前の治療	備 考
1	36女	92' 9	4 M	便秘, 生理痛, 冷え(一), flusing	VB ₂ , VC MINO 50mg	VB ₂ , VC	93' 1から MINO 中止 94' 11から TJ-6
2	32女	92' 11	3 M	便秘, 生理痛, 疲労感	VB ₂ , VC	VB ₂ , VC MINO, TJ-24	TJ-61 で下痢
3	28女	93' 2	2 M	冷え, 肩こり, 多汗, 生理前増悪, 倦怠感	VB ₂ , VC	VB ₂ , VC TJ-24	TJ-24 は飲めない
4	36女	93' 5	7 M	冷え, 肩こり, 頭痛, 生理痛, 前増悪, 肝斑	VB ₂ , VC	VB ₂ , VC TJ-25 MINO 50mg	
5	35女	93' 6	3 M	冷え, 肩こり, 便秘, 生理痛, 前増悪	VB ₂ , VB ₆ MINO 50mg	なし	3 カ月後から MINO は頓用
6	27女	93' 8	6 M	冷え, 肩こり, 便秘, 生理不順	VB ₂ , VB ₆	VB ₂ , VB ₆	94' 11から婦人科で 卵巣機能不全の治療
7	20女	93' 8	6 M	冷え, 肩こり, 便秘, 生理痛, 前増悪	VB ₂ , VB ₆ MINO 50mg	VB ₂ , VB ₆ TJ-58 MINO 100mg	TJ-58 は苦くて飲めない
8	48女	93' 12	5 M	冷え, 多汗, 肝斑, flusing	VB ₂ , VB ₆	なし	2 カ月前から生理(一)
9	23女	94' 3	5 M	冷え, 肩こり, 便秘	VB ₂ , VB ₆ MINO 50mg	VB ₂ , VB ₆ MINO 50mg	漢方内服 5 カ月で MINO 中止
10	28女	94' 4	5 M	冷え, 肩こり, 生理痛	VB ₂ , VB ₆ MINO 50mg	VB ₂ , VB ₆ MINO 100mg	漢方内服 5 カ月で MINO 中止
11	20女	94' 7	5 M	冷え, 倦怠感	VB ₂ , VB ₆ MINO 100→50mg	種々の抗生剤	漢方内服 2 カ月で MINO 減量
12	24女	94' 9	3 M	冷え, 肩こり, 生理痛, 前増悪	VB ₂ , VB ₆ , VC MINO 50mg	VB ₂ , VB ₆ , VC MINO 100mg	MINO 100mgでめまい, 漢方内服 2 カ月で MINO は 頓用
13	31女	94' 9	3 M	肩こり, 生理痛, 前増悪	VB ₂ , VB ₆ VC	VB ₂ , VB ₆ , VC MINO 100mg	MINO 内服中に胃潰瘍再発

まり盛り上がりせず, 色は多少紫がかった赤味をおび色素沈着 (肝斑を含む) を伴う。膿をもつことは少ない。

4. その他の駆瘀血剤

桃核気湯 (TJ-61) の使用目標: 血色もよく, 体力があり便秘傾向を有する者の瘰癧。月経異常があり, のぼせやすく, 顔がほてり, 手足の冷えを訴える。

加味逍遙散 (TJ-24) の使用目標: 体力は中等度, あるいはそれ以下。イライラ, 不眠, 不安, 頭痛, めまいなどの不定愁訴がある。月経異常があり, 冷えのぼせを伴う。

当帰芍薬散 (TJ-23) の使用目標: 体力の無い

人で, 血色が悪く顔は青白く, 足腰が冷え, 肩がこり, ときにめまいがする, という冷え症の者の瘰癧。患部は先が平らで, 赤味が少なく, 紫がかっている。

症例報告

1. 清上防風湯 (TJ-58) 有効例 5 例 (表 1)

本剤が有効であった症例を表 1 に示す。

年齢が18歳から24歳と若く, 女性は全例に便秘があるが, 月経異常は無いかあっても軽度。表 1 の 5 の男性は便秘はなかったが体力があり赤味の強い膿疱性瘰癧であった。

以下に代表例を紹介する。

図3 a 治療前

図3 b 治療3カ月後

症例1 (表1の3): 19歳女, 頬部を中心に赤味の強い大型の痤瘡が多発し膿疱を混在する。ミノサイクリン 100mg/day を6週間内服するも, 皮疹が軽快しないため, 便秘以外にとくに訴えがなかったことから, ミノサイクリンを50mg/day に減量し, TJ-58を併用した。2週後來院した時は, 便秘は軽快し, 新しい皮疹も出なくなった。8カ月後, ミノサイクリンを中止し, TJ-58とビタミンB製剤の内服で現在に至るまで経過は良好。

症例2 (表1の4): 20歳女, 膿疱が多数混在する痤瘡のため, 数種類の抗生剤を6週間内服するも皮疹の改善なく, 抗生剤による嘔吐, 下痢が出現したためTJ-58とビタミンB製剤の内服のみの治療とした。3カ月後には皮疹は著明に改善し, 来院しなくなった (図1)。

2. 十味敗毒湯 (TJ-6) 有効例7例 (表2)

本剤が有効であった症例は, 清上防風湯有効例に比し, もう少し年齢層が上で (21歳から36歳), 便秘はある場合と無い場合がある。軀幹に毛囊炎が多発しやすい男性に有効例が多かった。

以下に代表例を紹介する。

症例3 (表2の3): 21歳女, 頬部からオトガイ部に紅色の丘疹が多発, 膿疱はない。手足の冷え, 生理痛はあるが, 便秘は無い。年齢が若かったのでミノサイクリン 50mg/day と TJ-58を投与したが著効せず, TJ-6に変更して4週後にミノサイクリンは頓用となった (図2)。

症例4 (表2の5): 21歳男, 紅色の丘疹, 膿疱, 一部囊腫が顔面, 背部に散在する痤瘡で半年前から数種類の抗生剤で治療していたが, コントロールが悪いため, ミノサイクリン 50mg/day に TJ-6を併用したところ皮疹は著明に軽快, 2カ月後にミノサイクリンを中止, その後1年近く TJ-6のみの内服で経過は良好。体力はあるほうだが便秘は無く, 痤瘡以外の訴えは特に無い (図3)。

3. 桂枝茯苓丸 (TJ-25) 有効例13例 (表3)

本剤が有効であった症例は, 全例女性で大部分が20代後半から30代の生理前に増悪しやすいいわゆる成人型痤瘡で, 全例に手足の冷え, 肩こり, 生理痛などの瘀血の症状を有している。これらの症例は, いずれも頬部, オトガイ部の紫がかった小型の痤瘡が主で, 膿疱は無く皮疹の数も少な

表4 その他の駆瘀血剤有効例

症例	年齢・性	開始年月	効果判定までの期間	使用薬	使用理由	併用薬	直前の治療	備 考
1	36女	93' 2	4 M	桃核承気湯 (TJ-61)	便秘, 生理前増悪, 体力(+), 肝斑	VB ₂ , VC	TJ-58 TJ-25	TJ-25 で便秘 婦人科で卵巣機能不全
2	28女	93' 2	5 M	桃核承気湯 (TJ-61)	便秘, のぼせ, 冷え, 生理痛, 前増悪	VB ₂ , VB ₆	VB ₂ , VB ₆ TJ-25, TJ-24	婦人科で卵巣機能不全
3	24女	92' 9	5 M	加味逍遙散 (TJ-24)	冷え, 肩こり, 頭痛, 生理不順, 不眠, イライラ	VB ₂ , VC	VB ₂ , VC TJ-25	
4	24女	92' 5	6 M	当帰芍薬散 (TJ-23)	肩こり, 頭痛, 倦怠感, 生理不順, 生理痛, 多汗	VB ₂ , VB ₆ MINO 50mg	MINO 100mg 温清飲	92' 7から MINO 中止

図4 a 治療前

図4 b 治療5カ月後

い。肝斑, 炎症後の色素沈着を有する者が多い。

以下に代表例を紹介する。

症例5 (表3の4): 36歳女, 紫紅色, 小型の痤瘡が頬部, オトガイ部に散在し肝斑を伴う。皮疹の数は少ない。手足の冷え, 肩こり, 頭痛, 生理痛があり貧血ぎみで, 倦怠感を伴っていた。TJ-23を投与するも著変なく, TJ-25に変更し皮疹, 合併していた種々の症状が軽快した。

症例6 (表3の5): 35歳女, 色素沈着を伴う小型の痤瘡で, 手足の冷え, 肩こり, 便秘, 生理前増悪などの症状があったため, 初診時からミノサイクリン 50mg/day, TJ-25, ビタミンB製剤を投与, 3カ月後にはミノサイクリンは頓用となった。

症例7 (表3の7): 20歳女, ミノサイクリン 100mg/day の内服で一進一退であった。年齢が

若く、便秘がちであったためミノサイクリンを50mg/dayに減量しTJ-58を投与したが皮疹に著変なく、TJ-58も苦くて飲みにくいと訴える。手足の冷え、肩こり、倦怠感、生理痛、生理前増悪などがあったためTJ-25を投与したところ、6カ月後にはミノサイクリンは、頓用となった。

症例8 (表3の11): 20歳女、膿疱、嚢腫が混在する赤味の強い痤瘡でロキシスロマイシン、塩酸シプロフロキサシン、セフロキシムアキシセチルなどの抗生剤である程度軽快するも再発を繰り返す。手、足の冷え、生理痛、倦怠感などから、ミノサイクリン100mg/dayにTJ-25を投与した。2カ月後ミノサイクリンは50mg/dayに減量でき、手、足の冷えは軽快し、生理痛も以前のように鎮痛剤を使用しなくなった(図4)。

4. その他の駆瘀血剤有効例4例(表4)

桃核承気湯有効例2例、加味逍遙散有効例1例、当帰芍薬散有効例1例であった。

以下に代表例を紹介する。

症例9 (表4の1): 36歳女、体力のある顔色のよい患者で、便秘がちで生理前増悪があり、TJ-25で痤瘡、便秘が軽快しないためTJ-61を投与したところ、直後から便秘は軽快し5カ月で痤瘡も良くなった。

考 察

近年漢方薬の尋常性痤瘡に対する作用機序が、科学的に明かになりつつあり、例えば諸橋¹⁾は、黄連、黄柏が、痤瘡の発症機序に最も重要な因子の1つであり、痤瘡病巣部から優位に検出される皮膚常在菌である *Propionibacterium acnes* (以下 *P. acnes* と略す) に対して抗生物質に匹敵する濃度で強力な発育阻止作用を有していることを報告している。更に、黄連、黄柏、黄芩、連翹には脂腺における脂質合成抑制効果も認められており、それらの生薬を含む清上防風湯、荊芥連翹湯(当院に入荷していなかったため今回は使用していない)は、以前から尋常性痤瘡に有効な漢方薬として知られており、保険の適応もあることから最も頻繁に使用されている^{2)~4)}。また十味敗毒湯は *P. acnes* に対し、テトラサイクリン系抗生

物質と同等の低濃度でも抗リパーゼ作用を有することが明らかにされている⁵⁾。しかしながらこれらの漢方薬がすべての痤瘡に有効であるとは限らず、今回前述した簡単な東洋医学的な問診にしたがって、漢方薬を投与してみると、それぞれの漢方薬に有効であった患者群に共通する症状があることが良く理解できる。

今回特に特徴的だったことは、いわゆる瘀血を伴う女性の痤瘡には、前述した漢方薬、さらには少量のミノサイクリンよりも、むしろ駆瘀血剤、特に桂枝茯苓丸が奏功したことであろう。これらの患者は付随する様々な瘀血の症状(手足の冷え、肩こり、生理不順、生理痛、生理前増悪など)が軽快し、肝斑や炎症後の色素沈着も含め皮疹が軽快した。いいかえれば20代半ば過ぎの女性の痤瘡患者のほとんどが瘀血を伴い、桂枝茯苓丸の証であると言っても過言ではないと考える。

痤瘡は様々な要因で寛解増悪する疾患であるため、テトラサイクリン系の抗生物質による治療においても効果の判定はしばしば困難である。しかしながら漢方薬による効果は比較的短い期間にまず付随する様々な症状が軽快し、皮疹への効果も1~2カ月程度の観察で充分判断できると思われる。効果が不十分な場合は証を再考し早めに漢方薬を変更すべきと考える。我々の症例でも、例えば、清上防風湯は体力のある若者の痤瘡に著効するが、年齢が若くても症例7や症例8のように瘀血の症状がある場合には駆瘀血剤の方が有効であった。また症例3のように膿疱を伴わず、便秘がない場合には若くても十味敗毒湯の方が有効であった。また一見虚弱体質のようにみえても、加味逍遙散や当帰芍薬散よりも桂枝茯苓丸が、奏功した症例が多かった。

また症例2, 4, 8のように膿疱、嚢腫を伴う痤瘡でテトラサイクリン系抗生剤の内服では十分なコントロールができず、長期間にわたりロキシスロマイシン(RXM)やセフェム系抗生剤の内服を余儀なくされていた症例で、漢方薬を併用することにより、抗生剤の減量ひいては投与中止にいたった例が多数みられたことも特記すべき事項と思われる。

前述したように、尋常性痤瘡の治療に清上防風湯と荊芥連翹湯は西洋医学的な病名投与においてもある程度の効果が知られているが、今回当科で行った簡単な東洋医学的な問診と皮疹の性状から漢方薬を選択することにより、テトラサイクリン系薬剤に匹敵する、あるいはそれ以上の効果を上げることができると考えられた。

本論文の要旨は日本皮膚科学会第317回北海道地方会において発表した。

文 献

- 1) 諸橋正昭：尋常性痤瘡における漢方治療—漢方治療の基礎的検討，皮膚科における漢方治療の現況，2，80，1991
- 2) 北海道 TJ-58 研究会：尋常性痤瘡に対する清上防風湯の臨床的効果，皮膚，27，328，1985
- 3) 浦野芳夫，他：尋常性痤瘡における漢方治療—ツムラ荊芥連翹湯の使用経験，皮膚科における漢方治療の現況，2，70，1991
- 4) 橋本喜夫，他：痤瘡に対する荊芥連翹湯の使用経験，皮膚科における漢方治療の現況，5，46，1994
- 5) 松垣修一，他：十味敗毒湯ならびにミノサイクリンの *Propionibacterium acnes* に対する抗リパーゼ作用について，日皮会誌，103，33，1993

要旨 尋常性痤瘡の患者においてテトラサイクリン系抗生剤に反応が悪い症例，治療が長びいている症例を主体に漢方薬による治療を試みた。漢方薬を併用することにより皮疹が軽快し，抗生剤の減量，中止に成功した症例，漢方薬のみの内服で良くなった症例を，使用した漢方薬別に症例をまとめた。清上防風湯，十味敗毒湯，桂枝茯苓丸が奏功しそれぞれの漢方薬有効例群に共通する特徴が認められた。特に25歳以上のいわゆる成人型痤瘡の場合，ほぼ全例に手，足の冷え，肩こり，生理痛，生理前増悪などの瘀血の症状があり，駆瘀血剤，特に桂枝茯苓丸が著効した。

キーワード：尋常性痤瘡，清上防風湯，十味敗毒湯，桂枝茯苓丸，瘀血